

ピースボート福島子どもプロジェクト 2013年春休み in オーストラリア 活動の記録

Fukushima Youth Ambassadors in Australia: 2013



- 実施期間: 2013年3月23日(土)~4月1日(月) (現地滞在8日、事前研修を除く)
- 参加者: 福島県南相馬市内の中学生12名
- 訪問地: オーストラリア、メルボルン近郊

- プロジェクトホームページ: http://www.peaceboat.org/projects/fukushima_youth/
- 公式ブログ: http://pbv.or.jp/blog_fukushima/

福島子どもプロジェクト:「2013年春休み in オーストラリア」プログラム ～大自然を体験し、持続可能な社会を作る担い手になる!～

ピースポート福島子どもプロジェクトでは、2013年の春休みを利用して、福島県南相馬市の中学生を対象に、オーストラリア・メルボルンでのホームステイと環境教育のプログラムに招待しました。中学生という多感な時期に、独特で豊かな自然が残るオーストラリアでの日々が、参加する一人ひとりにとって大きな経験になることはもちろん、福島や日本の持続可能な未来を考える貴重な出会いと学びを持ち帰ってもらえるようにと、プログラムを企画しました。雪の舞う2月の事前研修から始まったプログラムは、以下4つの目的を達成し終了しました。

- ✓ **自然の素晴らしさを体験する**
豊かな自然に恵まれたオーストラリアで、その素晴らしさを体験する。
心と身体のケアをするとともに、未来にその環境を引き継ぐことの大切さを感じる。
- ✓ **海外に友達をつくる。語学を学ぶ**
現地の学校訪問やホームステイを通じて、異文化に触れ、英語を学び、海外に友達をつくる。
視点や考え方を知り、これからの福島の復興、日本の再生に向けたグローバルで創造的な発想力を身につける。
- ✓ **持続可能な暮らしを考える**
メルボルンで、地元の NGO や専門家から持続可能な暮らしについて学ぶ。
ウランを採掘する過程で被曝された先住民アボリジニの人々とも出会い、自然や健康とエネルギーの関係について考える。
- ✓ **感謝を伝える。福島の経験を共有する**
東日本大震災後、日本がオーストラリアから受けた多くの支援に対するひとつの恩返しとして、日本の経験を伝え、世界の教訓にしよう。

ピースポート福島子どもプロジェクト —福島の子どもたちに“夢と健康”を—

東日本大震災と原発災害は、福島の人々の日常に大きな影響を与えました。「放射能への不安から、屋外で十分に遊べない」「仮設校舎や仮設住宅の生活で、集中して勉強ができない」など、事故から2年以上が経過したいまも、特に子どもたちを取り巻く環境は厳しいままです。
“保養”と“国際交流”の体験を通して、子どもたちに“夢と健康”を届けたい、と2011年の震災後から立ち上げたのが「福島子どもプロジェクト」。学校の長期休暇を利用し、NGOピースポートと一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンターが協力して実施しています。

- プロジェクト呼びかけ人： 加藤登紀子(歌手)／鎌田實(諏訪中央病院名誉院長)
香山リカ(精神科医)／田中優(環境活動家)／田部井淳子(登山家)



2011夏「アジア交流の船旅」



2012夏「高校生の富士登山」



2012夏「音楽交流の船旅」

■「2013年春休み in オーストラリア」プログラム概要

- 【参加者・保護者説明会】 2013年2月13日(水) 於 南相馬市鹿島区生涯学習センター
- 【事前研修】 第1回 2013年2月22日(金) 於 同上
第2回 2013年3月9日(土) 於 同上
- 【現地プログラム】 2013年3月23日(土)～4月1日(月)
- 【事後報告会】 参加生徒が通う各中学校にて2013年4～5月にそれぞれ実施
- 【参加生徒】 福島県南相馬市の中学生12名(各学校より選出)
・内訳【男女別】 男子4名、女子8名
【学校別】 鹿島中学校 2名 原町第一中学校 4名
小高中学校 2名 原町第三中学校 2名
石神中学校 2名
- 【引率兼通訳】 ドライヤーはづき (ピースポート)

【旅程】

日付	主な活動場所	主な活動内容
3/23(土)		南相馬出発、成田空港より空路オーストラリアへ
3/24(日)	メルボルン	到着オリエンテーション、ホームステイ開始
3/25(月)	メルボルン近郊 (ベントリー、ブライトン)	現地中学校を見学、現地小学校で交流、ビーチ体験
3/26(火)	メルボルン郊外 (ギズボーン、パイパーズクリーク)	現地中学校で交流、郊外の農場訪問
3/27(水)	メルボルン郊外(ヘプバーン)	風力発電施設と市議会、パーマカルチャーガーデン訪問
3/28(木)	メルボルン市内	環境パーク訪問、市内観光、現地環境NGO訪問
3/29(金)	メルボルン市内	ホストファミリーと動物園でピクニック
3/30(土)	メルボルン郊外(フィリップ島)	フィリップ島訪問
3/31(日)	メルボルン市内、空港	お別れ会、メルボルンからシドニー経由で空路日本へ
4/1(月)		成田空港到着、バスにて南相馬へ帰着

【企画・運営】 NGOピースポート、般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター(PBV)

ジャパニーズ・フォー・ピース Japanese for Peace (JfP)

メルボルン在住の日本人有志を中心に2005年に発足した平和活動グループ。歴史を真摯に学び、世界中の子どもたちのために平和な未来を築くために活動している。当プログラムでは、現地でのプログラムやホームステイの企画運営を主に担う。

特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

放射能の影響により戸外での活動制限が続いた子ども達を心身ともに解放したいという願いから、2011年6月に南相馬市に発足。市内小中学校PTA連絡協議会のメンバーと県外受け入れ団体が協力し、学校の長期休暇に子ども達を保養プログラムに送り出す活動を続けている。当プログラムの参加生徒の選出を担う。

■オーストラリア現地プログラム内容と旅の様子

いざ、出発

市内の5つの中学校から集まったユース達は、出発前の2回の研修で英語レッスンや、ゲームを通じた環境教育などを受けました。

出発当日はまだお互いにぎこちなく緊張し、海外旅行も飛行機に乗るのも初めてという数名も含め、チェックインや出国審査、飛行機の中でも興味津々の様子でした。そして、夏も終わりに近づいているとはいえ強い日差しと熱気の中に降り立ったメルボルンの町では、緊張しながらもホストファミリーに出会い英語で挨拶をし、8日間のメルボルン滞在がスタートしました。

【1日目 - 3月23日(土)】

南相馬市内にて出発式。成田空港より空路オーストラリアへ。

【2日目 - 3月24日(日)】

メルボルン到着。ジャパニーズフォーピース(以下 JfP)代表のカズ・プレ斯顿さん宅にて、ホストファミリーと出会う。開会式を行い、交流ゲームやあいさつ。2人組でのホームステイ開始。

オーストラリアの子ども達と交流

到着の翌日からは毎日たくさんのプログラムに参加しました。「持続可能」な暮らしや社会づくりを目指す様々な取り組みに触れたり、こんなにも遠くで自分たちのことを思ってくれている子ども達や大人に出会ったり、はだして思いっきり砂浜や農場を走り回り、海に飛び込んで遊んだり。何事にも躊躇せず、体当たりで体験していったユースの好奇心とパワーには周りの大人たちも思わず笑顔になり、元気をもらいました。

ユース同士も最初の数日ですっかり打ち解け、かけがえのない仲間になっていきました。ホームステイを離れた一夜、プログラム中間地点での感想などを一人ずつ発表してもらったと、「このメンバーと一緒にオーストラリアに来てよかった」、「思い切り遊べて本当に楽しい」などの声が聞かれました。

【3日目 - 3月25日(月)】

朝は、ベントリー・セカンダリ・カレッジ訪問。自家発電用の小型風力タービン、生物多様性向上のために在来種の植物を植えた森、ビオトープ、雨水利用システムなど、校内の持続可能プログラムや設備を見学。(同校は、国連の持続可能プログラムに関する賞を受けています)。

続いて、ブライトン・ビーチ・プライマリスクールを訪問し6年年と交流。震災の経験や現状についてユースから発表、および小グループに分かれて、通訳を通してディスカッションを実施。ユースと現地生徒一人ずつのペアで学校内を見学。昼食は現地生徒の父兄が準備してくださいました。全員でオーストラリアフットボールなどをし、思い切り体を動かしました。

午後は、地元ライフセーバー・クラブの協力によりビーチでサーフボードやライフセービングなどを体験。ビーチで綱引きや、ドッジボール、棒取りゲームなどを行い、ほぼ全員が震災後初めて海で遊ぶ機会になりました。



<2013.3.9 南相馬市内、出発前研修>



<2013.3.24 メルボルン到着。カズさんと。>



<2013.3.25 ベントリー・セカンダリ・カレッジ>



<2013.3.25 サッカー交流>



<2013.3.25 サーフボード体験>

【4日目 - 3月26日(火)】

朝、ギズボーン・セカンダリ・カレッジ訪問。この学校は震災後、募金や千羽鶴を通して南相馬の中学校に支援を継続しています。ユースから自己紹介や日本文化の紹介をしたり、現地生徒と一緒に日本のカレーを作って食べたりしました。現地生徒がつくった6千羽の折り鶴をうけとり、各中学校へ持ち帰り報告することを約束しました。

午後は、メルボルン郊外の農場を訪問。農場周辺に生息している野生のカンガルーを見たり、トラクターに乗って農場見学をしたり、干し草のロールを使った遊びや手作りのウォーターライダーで遊ぶなど野外での活動を満喫。夜は、農場でバーベキューとキャンプファイヤーを体験。



<2013.3.26 六千羽の鶴のプレゼント>

地域に根ざした取り組みを学びながら、成長

滞在中、ユースは毎日交代でリーダーになり、1日の初めと終わりのあいさつや短い感想、訪問した場所でのお礼などを担当しました。途中、地元の新聞やテレビ局、ラジオ局でのインタビューも多く受けました。学校訪問では暖かく楽しく迎え入れてくれた生徒たちと一生懸命にコミュニケーションを図りました。できるところは英語で、わからないところは通訳の助けをもらいながら、少しずつ人前で話すということ、自分の気持ちや体験したことをまとめるということもできるようになりました。



<2013.3.27 ウィンドファームにて>

【5日目 - 3月27日(水)】

朝、ヘップバーン市を訪れ、コミュニティー所有型の風力発電機2機で合計4.1MWの発電容量を持つ「ヘップバーン・ウィンドファーム」を見学。住民から選ばれたリーダー2名から風力発電機の詳細、運営の仕組みなどの説明を受けました。約2,000世帯分の電力を賅っていることや、騒音が思ったより小さかったことなどを学びました。その後、ヘップバーンの町を見学。

昼は、ヘップバーン市議会にて昼食。議員代表の方とオーストラリアに滞在してみたいの質問や、福島の状態についてなど約1時間のディスカッション。

午後には、ヘップバーン・パーマカルチャー・ガーデンを訪問。パーマカルチャー概念の創設者の一人であるデビッド・ホルムグレン氏のご自宅でありパーマカルチャーの実践場である農園を、説明をうけながら見学。その土地の気候と風土にあった持続可能な農と暮らしの実践について学びました。



<2013.3.27 パーマカルチャーガーデン>

持続可能な社会を考える

訪れた様々な持続可能な社会づくりの現場では、ユースから「自分たちの日常の中で何ができるか」、「どこから始めたらいいか」、という質問ができました。「ここで学んだことを帰ってから学校や家族に話して共有すること。なにができるか常に考えながら学び続けること」という答えをもらい納得していた様子の子供たち。今回得た多くの学びを彼らなりにもしっかりと理解するにはまだ時間がかかるかもしれませんが、一人ひとり、その学びを継続し、実践していかれることと思います。

【6日目 - 3月28日(木)】

朝、CERES 環境パーク(環境計画における教育と研究センター)を訪問。ゴミの埋め立て場所だった土地を、コミュニティ再生の場として有機農場や、コミュニティ・カフェ、廃品再利用、自然エネルギーを利用した建物、子どもの遊び場などとして地元住民が再開発した歴史や、実践の様子を見学。メルボルン市内のクイーン・ビクトリア・マーケットにて昼食と買い物を楽しみました。



<2013.3.28 CERES 環境パークにて>

午後、オーストラリア自然保護基金(ACF)を訪問。オーストラリアのウラン鉱山についての説明を受け、先住民のアボリジニとの関係、日本の原発との関係などを学びました。カカドゥ自然国立公園のミラル族のリーダーから、自分たちの土地から出たウランが使われていた福島原発で事故が起こってしまったことに強い責任を感じ心を痛めている、とのビデオメッセージをいただきました。ACF 事務所のあるグリーンビル(雨水再利用や省エネを実施)も見学。



<2013.3.28 ACFにて先住民のお話を聞く>

オーストラリアを満喫し、帰国

6日間の盛りだくさんなスケジュールを過ごした翌日は、復活祭の祝日から始まる長い週末でした。動物園を訪れたり、ホストファミリーと過ごしたり、ゆっくり、そしてたっぷりとオーストラリアを満喫し、帰国の途に着きました。

【7日目 - 3月29日(金) イースター・ホリデー(復活祭の祝日)】

午後、ホストファミリーとJFPメンバーが集いメルボルン動物園でピクニック。

【8日目 - 3月30日(土)】

午前中はサンレモにてペリカンの餌づけを見学。午後は、フィリップ島の沿岸遊歩道から、景色とリトルペンギンの営巣地を観察してから、ワイルドパークとビーチで楽しみました。夕方にはACF デイブさん宅でバーベキューディナー。



<2013.3.29 動物園でホストとピクニック>

【9日目 - 3月31日(日)】

午前中はホストファミリーとの時間。ユース2名がメルボルンの日本人向けラジオ番組に出演。午後にはメルボルン市内にてお別れ会があり、ユースから挨拶と歌をおくりました。夕方、メルボルン空港より空路成田へ出発。



<2013.3.30 エミューに餌付け>

【10日目 - 4月1日(月)】

早朝、成田空港に到着。午後南相馬市内到着。南相馬こどものつばさ代表・西さんと父兄の迎いで、無事全員が帰宅の途につきました。



<2013.3.30 フィリップ島で2回目のビーチを楽しむ>



<2013.3.31 お別れ会>

■帰国後のユースの声

※学年は渡航時(2012年度)。

雨水を利用したり、ソーラーパネルを使ったりなど、こちらではあまりやっていないことなので、これからの生活で僕たちのできるかぎりのことをしっかりやり、この南相馬市の復興のために頑張りたいと思います。
青田教常くん(原町第三中学校2年)

いろいろなことを学ぶにつれ思ったことは、一人一人が未来に今の環境を残すためには何をすべきかを考え、小さなことでも少しずつ実行するという意識が大切だということです。近い将来、私たちの故郷、「復興した福島」を見ていただけるよう、皆で頑張りたいと思います。
天尾水樹さん(小高中学校2年)

今回のプログラムで、将来自分がやりたいことが少し決まりました。将来、「日本とオーストラリアを結ぶ仕事」に就きたいと思います。将来の夢が無かった私に、大きな大きな一本の道ができました。このプログラムで学んだことをたくさんの人に伝えていこうと思います。
石橋尚美さん(原町中学校1年)

南相馬の学校に来て支援をしていただいたギズボンでは、生徒のみなさんが温かく迎えてくださったのでとてもうれしかったです。福島は世界の人からもたくさん支援を受けて復興に向かっていくんだと気づきました。福島が復興したら恩返しをしたいです。
菅野紗也さん(鹿島中学校2年)

オーストラリアは、日本より「持続可能」が進んでいました。持続可能がすすんでいるということは、人が住みやすい街に進化していったということです。まだ私達の年ではゴミ拾い、ボランティア活動などできません。だから、オーストラリアに行って、まずそこからやっっていこうかなと思いました。
後藤明音さん(原町第一中学校1年)

ブライtonビーチ小学校では、6年生とサッカーなどをやり、とても楽しい時間を過ごせました。その後、ビーチで過ごしました。久しぶりの海でした。ホストファミリーと過ごした時間、そしてこの10日間は、一生忘れることができない貴重な体験となりました。とても楽しかったです。
牛来心くん(原町第三中学校2年)

「自分たちが自然の物を食べたのなら、それを自然に戻さなければ食べてはいけない」という言葉が今でも心に残っています。人間も自然の中の一部なんだということに気がつきました。また、オーストラリアに行ったおかげで私の大きな目標ができました。それは「英語」です。頑張って英語で話してみてもそれが通じた時、本当に嬉しく、もっと英語で話したくなりました。
今野紗希さん(鹿島中学校2年)

今回の滞りで再生可能エネルギーについて色々学びました。この学んだことをしっかり学校のみなさんに伝えたいです。また、絶対オーストラリアに行きたいです。
紺野雄太郎くん(原町第一中学校1年)

CERES 環境パークのワークショップでは、原子力発電の原料であるウランがオーストラリアで、しかも先住民族の神聖な場所から採取していたことを初めて知り、改めて日本人はそういうことに興味がないんだなと思いました。今回私はオーストラリアに行けて様々な体験ができて、日本はもっと持続可能な社会・エネルギーに興味をもつべきだと思いました。
坂田未来さん(石神中学校2年)

今での私はエコや植林をすることが持続可能な社会のつくり方だとばかり思っていたのですが、自然と共存したり再生可能エネルギーを使うことで、人と自然にやさしい社会がつかれることを知りました。短い体験ではありましたが、今までの私の生活より、人として生きていると実感できる、そんな心がきれいになっていくような所だったので、日本にも取り入れてもらえたらなと思いました。
原田望さん(小高中学校2年)

私は2度目のホームステイでしたが、オーストラリアは新たな刺激となりました。これからもっとたくさん英語を勉強して、海外関係の仕事につきたいと思いました。
山崎亜香里さん(石神中学校2年)

オーストラリアに行って変わったことは二つあります。一つめは、持続可能な取り組みを学び、水の無駄遣いや電気の無駄遣いなど資源の大切さがよくわかりました。二つめは、英語力がすごく身についたことです。英語で会話ができて英語に自信を持てるようになり嬉しかったです。
渡部将大くん(原町第一中学校2年)

メルボルンで訪れることができたすべての場所、出会ったすべての人々から本当に暖かい歓迎を受け、ユースの中に新しく「自分とつながっている場所」ができた様子が伺えました。「英語できちんと喋れるようになってまた帰ってきます」というユースの言葉に、また今後の広がりを感じました。この出会いと体験が何かしらの形で、将来的に、彼ら彼女らを導く助けとなっていくでしょう。
(引率・通訳 ドワイヤー・はづき)

■団体寄付・助成にご協力いただいた皆様（団体名は略称表記）

渡航費用を含む各種費用は、数多くの個人や団体による寄付や支援により工面することができました。みなさまのご支援・ご協力に心より感謝いたします。ここに、寄付や助成を頂いた団体を紹介いたします。

Yuki Lee & Sisters Japan, KIZUNA AID Project/日蓮宗あんのん基金/(株)小鳥の森ゴルフパーク/スペインレストラン「イレーネ」/Japan Club of Victoria/Japanese for Peace

◆ソーシャル・クラウド・ファンディング・サービス「READYFOR?」を通じて、南相馬市～成田空港間の子どもたちの送迎のための直行バス運行をご支援いただいた皆様:松井良幸さん/田中哲夫さん/松岡智広さん/伊東聡志さん/中山雅晴さん/瀬名波雅子さん/斎藤万紀子さんを含む 51 名の皆様

■企画・運営にご協力いただいた団体・個人の皆様（敬称略）

ジャパニーズ・フォー・ピース/オーストラリア自然保護財団(ACF)／「地球の友」オーストラリア(FoE)／戦争防止医療協会(MAPW)／南相馬こどものつばさ/Felicity Ruby(オーストラリア緑の党アドバイザー)/Bentleigh Secondary College/Brighton Beach Primary School/Brighton Beach Life Savers Club/Noriko Ikaga & Gisborne Secondary College/Mr Peter Shuey, Piper's Creek Farm owner/Hepburn Windfarm/ Hepburn City Council/Sue Holmgren, Rick Tanaka & Hepburn Permaculture Garden/CERES Environmental Park/Dave Sweeney, Australia Conservation Foundation/Noriko Tadano, Shamisen Artist/Sweeney Family (Dave, Kathleen, Mungo)/Kirsten Blair/Martin & Sheryl May/Ian & Gill McDouall/Bailley House/Rotary Club of Doncaster/Australian Education Union/Youki's Japanese Tapas Bar/David & Helen Rintoul/John & Jenny McIntyre/Hugh & Andrea Oconnor/Mark & Kazuyo Preston/Stephen & Yoko Peterson/Tony & Kyoko Preston/Yoko & Clive Davis

■メディアでの紹介

- 2013.3.10 掲載 The Sydney Morning Herald/The AGE "Hopeful air revives Japanese children"
<http://www.smh.com.au/world/hopeful-air-revives-japanese-children-20130309-2fsek.html>
<http://www.theage.com.au/world/hopeful-air-revives-japanese-children-20130309-2fsek.html>
- 2013.3.28 掲載 TBS News i 「被災地の中学生が豪で再生可能エネルギーなど学ぶ」
http://news.tbs.co.jp/20130328/newseye/tbs_newseye5292437.html
2013年4月9日放送 TBS ニュースバード CATCH THE WORLD 「被災地中学生が豪訪問」
http://news.tbs.co.jp/newsi_sp/catch/20130409.html
- 2013.3.29 掲載 "Hepburn Wind hosts Fukushima Youth Delegation on clean energy fact finding mission"
<http://yes2renewables.org/2013/03/29/hepburn-wind-hosts-fukushima-youth-delegation-on-clean-energy-fact-finding-mission/>
- 2013.4.2 放送 臨時災害放送局 南相馬ひばりエフエム <周波数:87.0MHz>
帰国時の参加者のインタビュー音声を紹介されました。
(ラジオ局ウェブサイト: <http://minamisomasaigaifm.hostei.com/>)
- 2013.4.8 掲載 The Weekly Review Bayside "Fukushima teens on Brighton beach Peace mission"
<http://www.theweeklyreviewbayside.com.au/story/1416969/fukushima-teens-on-brighton-beach-peace-mission/?cs=1473>
- 2013.4.10 掲載 Holmgren Design "From radiation ravaged Fukushima to permaculture future"
<http://holmgren.com.au/fukushima-to-permaculture/>
- 2013.5.3 掲載 日豪プレス・特集「東日本大震災2周年被災地中学生久しぶりの外遊びを満喫」
http://nichigopress.jp/interview/column_spe/48009/
- 2013.5.9 掲載 オルタナ 「南相馬の中学生、オーストラリア初の市民風車を訪問」
<http://www.alterna.co.jp/10969>
- 2013.5.13 掲載 日豪プレス・JFPピースフル通信「『福島子どもプロジェクト2013・春』を振り返って」
<http://nichigopress.jp/column/jfp/48031/>
- 2013.6.1 掲載 伝言ネット Web 特集「環境や未来のためにわたしたちがすべきこと」
<http://www.dengonnet.net>

■プログラム成果

東日本大震災および原発事故の発生から2年以上が経過した今、原発事故による放射能汚染への世間の意識は低下しているといわざるをえません。避難はせず、長く過ごしてきた土地で生活続ける家族に向けた支援や、特に放射能の影響を受けやすい子どもたちの保護も、長期的で本質的な取り組みが必要でありながら、その規模が災いしてか、行政からも民間からも、十分にその機会が提供されていません。このような状況下で、子どもたちを1週間という短い期間ながら、離れた土地に招待し「保養」の場を提供することについて、多くの賛同も頂く一方、その意義や実際の効果についての疑問が投げかけられることも少なくありません。

このような状況においても私たちが本プロジェクトを継続するのは、長期的な成果に期待するからです。中学生という時期に、普段の生活を営む限られたコミュニティから一步踏み出し、世界に目を向けることによって広がる視野と好奇心がもたらす将来への可能性は測り知れません。単に異なる文化や言語に触れるだけでなく、訪れた地域の人々と知り合い、その歴史や課題、解決への取り組みを学ぶことにより、また、それを郷土にもちかえり比較し考えることにより、より多角的で創造的な視野をもつ人材として、今後の地域社会をリードしていく人材として育ってくれると期待しています。

本プログラムで設定した4つの目的は、行動記録や感想文からもわかるとおり、それぞれ達成できたと思っています。子どもたちが、まずは思い切り大自然の中で楽しむことと、とにかく英語を使ってコミュニケーションをとること、という最も即時的なチャレンジに全身で取り組みました。また、プログラムが進行するにつれ、同世代の子どもたちの環境への取り組みや、生活に根ざした持続可能な社会への取り組みに触れたこと、また、日本ではあまり語られないウラン採掘における問題点を学んだことが、子どもたちのこれまでの何気ない生活を見つめ直すきっかけとなりました。加えて、国も言葉も違う「他人」が、互いを心配したり温かく受け入れたりしていることを肌で感じてきました。また、同年代の12名が共通の経験を持っていることも、今後の精神的な支えにもなるでしょう。

このプログラムにおける長期的な成果をみるにはまだ数年から十数年という単位で時間がかかりますが、その間も継続して子どもたちに学びの場を提供することの重要性を確信しています。

(プロジェクト担当者 市塚)

■編集

市塚藍子、ドワイヤーはづき、メリ・ジョイス

■発行日

2013年7月10日

■発行

「福島こどもプロジェクト」

国際交流 NGO ピースボート

一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンター

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL: 03-3363-7561 / FAX: 03-3363-7562

http://www.peaceboat.org/projects/fukushima_youth/